

衝動性と利己性の尺度としての価値割引

質問紙法による検討

Discounting as a scale for Impulsiveness and Selfishness

○八木広大・伊藤正人・佐伯大輔

(大阪市立大学文学研究科)

Hiroo YAGI, Masato ITO and Daisuke SAEKI

(Graduate School of Literature and Human Sciences, Osaka City University)

Key word: Discounting; Impulsiveness; Selfishness

目的

衝動性と利己性とは、それぞれ自己制御選択場面と協力選択場面という、個人内・個人間という異なる文脈での選好の1つである。ここでは、衝動性と利己性のそれぞれを遅延割引・社会割引という価値割引の観点から定量化して比較できると考えた。

本稿では、遅延による価値割引と共有による価値割引がどちらも双曲線関数という同型の関数によって記述できるということ(Rachlin, Raineri, & Cross, 1991; Rachlin, 1993)、遅延割引と協力選択の間に関係が見られたこと(Harris & Madden, 2002)から遅延割引と社会割引の間にも関係があると仮説を立てた。そして、質問紙調査によって遅延割引と社会割引を測定することでその関係を明らかにし、そこから衝動性と利己性の関係を導き出すことを目的とする。具体的には、主観的等価点や双曲線関数に基づく割引率について遅延割引と社会割引との間の相関を調べることで、それらが類似したプロセスであるかどうかを検討する。

方法

大学生106名(男性55名、女性51名)に対して調査を行った。遅延割引に関しては、「今もらえる8万円」と「遅延後にももらえる13万円」間の選択、社会割引に関しては「1人でももらえる1万円」と「面識の無いN人と自分とでももらえる13万円」間の選択を行った。遅延は2週間~50年後の25段階、共有人数は1~25人の25段階で変化した。

また、参加者には、2つの選択肢のうちのどちらかを必ず選択しなければならないこと、そして社会割引の選択場面では、集団で得た報酬は各人に分配することはできないことを教示として与えた。設問数は1ページに25問で、各割引要因において参加者内で上昇・下降系列の両方を行った。遅延割引(質問紙)と社会割引(質問紙)の実施順序は参加者間でカウンターバランスした。

結果

質問紙調査によって得られた等価点から双曲線関数式に基づき割引率を算出し、遅延割引率と社会割引率についてピアソンの積率相関係数を求めた。その結果、 $r=0.405(p<0.05)$ という有意な正の相関関係が得られた

(図1)。

考察

本研究の結果は、衝動性の高い人は利己性も高いことを示唆する。これは、価値割引という枠組みが衝動性と利己性という異なる文脈における概念の関係を比較するのに有用であることを示しているが、今回は相関関係が得られたものの、その因果関係については言及されていない。また各割引が類似したものであるならば、社会割引においても同様に選好逆転や報酬量効果が見られるのか、さらには質問紙法ではなく学習場面においても同様の結果が得られるかどうかについては、今後検討すべき課題である。

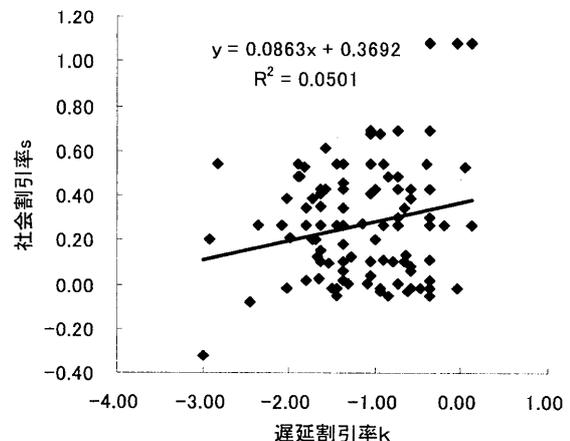


図1. 質問紙から得られた割引率の散布図(log)

引用文献

- Harris, A. C. & Madden, G. J. (2002) Delay discounting and performance on the prisoner's dilemma game. *The Psychological Record*, *52*, 429-440.
- Rachlin, H. (1993) The context of pigeon and human choice. *Behavior and Philosophy*, *21*, 1-17.
- Rachlin, H., Raineri, A., & Cross, D. (1991) Subjective probability and delay. *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, *55*, 233-244.